

カヤツリグサ科 フトイ属

フトイ (太藨)

Schoenoplectus tabernaemontani (C. C. Gmel.) Palla

自生環境

湿地、水辺 など

原産地

日本在来

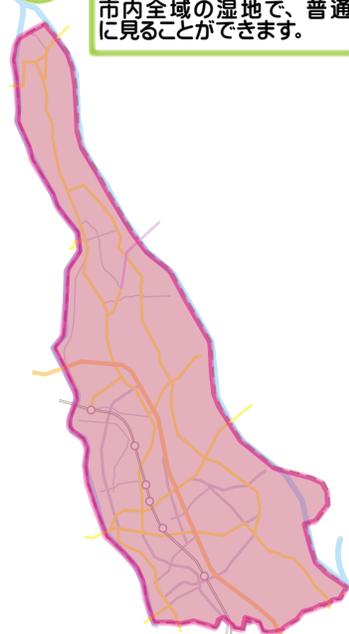
生育を脅かす要因



市内全域の水辺にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。ただ乾燥には弱く、さらに自生環境の湿地や沼は、埋め立てなどにより失われやすい場所です。

市内の分布状況

市内全域の湿地で、普通に見ることができます。



特徴

- ☆ 池や沼のほとり、川岸など、水辺に多い多年草で、水に浸かった状態で育っているのをよく見かけます。とても大きな草で、よく育ったものでは草丈が2.5m近くにも達することがあります。
- ☆ 葉は退化し、株もとに痕跡状のものがわずかに見られる程度です。茎の断面は円形で直径は1~2cmくらい。中にはスポンジのような白い「髓」が詰まっています。茎に白や黄色の横じまが入るシマフトイ、白い縦じまが入るタテジマフトイなどの品種があり、観賞用に栽培されています。
- ☆ 5~9月頃、茎の先に茶色い穂をつけます。ひとつひとつの小穂は長さ6~15 mm ほどの長楕円形です。先に雌しべを出し、ワントンボ遅れて雄しべが顔を出します。雌しべの柱頭は白い糸状で2つに分かれています。

名前にイとつくものの...

イグサ (イ) はイグサ科の湿生植物。フトイはイグサ科では無くカヤツリグサ科ですが、どこかイグサに雰囲気が似ており、それでいて茎が太いことから、イグサの名前を借りるかたちで命名されました。カヤツリグサ科の中には、フトイの他にもイグサの名前を借りて、〇〇〇イといったものが少なくありません。ハリイ、マツバイ、ホタルイ、カンガレイ、サンカクイなどがその例です。



草丈は2m近くになる

葉はほとんど退化して、茎の根元に痕跡のようなものが少し残るのみ



茎の断面は丸い。直径は1~2cmくらい



花や果実の穂は茎の先につく



柱頭

雌しべの柱頭は2つに分かれる

雌性期 先に雌しべが出る

雄性期 雄しべはそのあと



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

